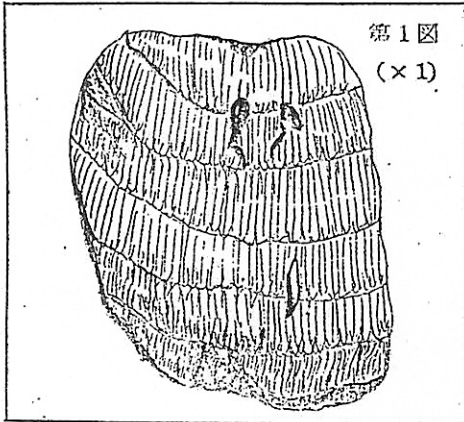


人吉市西瀬橋下の球磨川河原での  
*Lima (Acesta) sp.* の発見について

人吉二中 田上公輔

人吉市西瀬橋下の球磨川には人吉盆地周辺の古期堆積岩分布地より選ばれた転石がごろごろしている。これらの殆んどは時代未詳中生層(四万<sup>十</sup>層群)よりもたらされたものであるが、古生層の礫もまじっている。これらの礫の中から問題の二枚貝化石片(第1図参照)が発見された。



化石を含む岩石は粗粒砂岩で、化石は破片であるが保存はよい。

熊大・田村助教授の話によると、これは表面装飾から判断して *Lima (Acesta)* の左殻片であろうとのことである。又 *Acesta* はジュラ紀からも報告されているが、L.R. Cox氏によると、それらは真の *Acesta* ではないようである。我国では白堊紀層からも報告はないようであるが、古第三系からは数種が報告されている。このうち *Lima (Acesta) nagaio Oyama, L.(A) kumasoana Nagao* が今回のものに近く、特に前者に近い。しかし採取化石は左殻片にすぎないので同定は出来ない。

今回の報告は所属を明確にし得ない河原の一転石である。しかしこれが時代未詳層群より由来したものであることは、岩石の性質及び *Acesta* の発生時期等を考慮して間違はない。それ故この山地の時代未詳層群の時代を暗示すると共に、この発見を契機として、更に転石か又化石産地が見出されて、時代未詳中生層の時代が解明されるようになれば、その意義は大きいものがあるというべきである。